

発達障害とは何なのか？

2015年度のCO-BOは、「発達障害のある子どもたちの学びに関わる問題」について、5名の有識者それぞれの観点から発達障害について語っていただきました。
小児科医であり、お茶の水女子大学副学長でもある榊原洋一先生は、発達障害を「生まれつきの認知や行動の特徴によって、対人関係やコミュニケーション、行動や感情のコントロール、学業などに大きな困難を伴う状態」としています。全5回のフォーラムを終えて、発達障害の原因は親の育て方や環境ではなく、先天的な脳の機能障害であること、通常学級にも一定数の発達障害の児童生徒が在籍していること、その子どもや保護者たちに適切なケアがなされず困難な状況にあることなどがわかってきました。現状を知るために、まず定義や特性など「発達障害とは何なのか？」をみていきます。

本テーマについてCO-BOフォーラムでお話を伺った5名の有識者のみなさまによるお話を参考に構成しています。
http://berd.benesse.jp/special/co-bo/co-bo_theme3.php

- お茶の水女子大学 榊原洋一教授
 - NPO法人特別支援教育研究会 未来教室 秋山明美先生
 - 筑波大学附属大塚特別支援学校 安部博志先生
 - 特定非営利活動法人 全国LD親の会 東條裕志理事長
 - 発達障害をもつ大人の会 広野ゆい代表
- ※本シートへのコメントもいただいておりますので、CO-BOのサイトを是非ご覧ください

発達障害者支援法の定義

2005年に施行された発達障害者支援法では以下のように定義されています
発達障害は、「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」(発達障害者支援法第二条より)と定義されています。

発達障害の診断基準

DSM-5 (精神障害の診断と統計マニュアル)

最新版は2013年公開(DSM-IVから約20年ぶりの改正)
米国精神医学会(APA)の精神疾患の診断分類。明確な診断基準を設け、精神障害の診断が異なるという診断の信頼性の問題に対応することを目的とする

ICD-10 (疾病及び関連保健問題の国際統計分類)

最新版はICD-10 (2013年版)
世界保健機関(WHO)が作成した分類。異なる国や地域で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録、分析、解釈及び比較を行うことを目的とする

発達障害の分類とその認知・行動の特徴

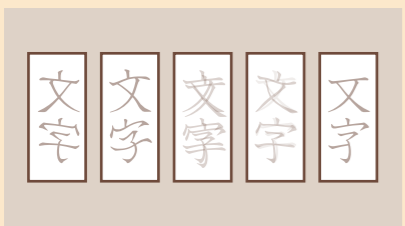
厚生労働省による発達障害の分類 ※併発しているケースもみられる。(2013年5月に公開されたDSM-5を併記しています)

■ 学習障害 LD=Learning Disabilities

DSM-5では、SLD (Specific Learning Disorder : 限局性学習症/限局性学習障害)
全般的な知的発達に遅れはないが、「読む・書く・計算する」など生まれつき読み書きなどに困難を伴う障害。脳の機能障害が原因といわれる。「読字障害(ディスレクシア)」、「書字障害(ディスグラフィア)」、視覚過敏など、言葉の読み書きや計算、図形理解など、特定の領域において不得手がある。

特徴 文字の認識や、文章の読み取りが困難

例) 文字が反転した「鏡文字」で見えることや「歪む」「重なる」「揺らぐ」または「一部分だけ」しか見えない等



特徴 聞き取り(聞き分け)が困難

例) 授業中、周囲の音がうるさくて先生の話していることが聞き取れない(交差点の人混みの中なかで授業を受けているかのよう)



特徴 数字や時間の概念理解や計算が困難

例) 簡単な計算にも多くの時間がかかったり間違える、5分間がどれくらいの長さかイメージできない



特徴 文字情報から意味を見出すことが困難

例) 「イヌ」という音声を聞くと犬をイメージできるが、「イヌ」という文字を読んでもイメージできない



特徴 音声情報から意味を見出すことが困難

例) 「イヌ」という文字を読むと犬をイメージできるが、「イヌ」という音声を聞いてもイメージできない



特徴 視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚が過敏で日常生活に困難

例) プロジェクタの光が眩しくて投影した文字が読めない、理科室のにおいで吐き気がする等



■ 注意欠陥・多動性障害 ADHD=Attention-Deficit Hyperactivity Disorder

DSM-5では、ADHD (Attention-Deficit Hyperactivity Disorder : 注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害)
注意力の不足や、多動性、衝動性をコントロールできないといった特性を持ち、計画や目的を意識して遂行する脳の実行機能がうまく働かないことによって生じる。「注意欠陥優位型」と「多動・衝動優位型」、それら両方の特性がある「混合型」の3つのタイプに分かれる。

特徴 自分の行動を制御することが困難(多動性)

例) つい身体のどこかを動かしてしまう、授業中に立って歩き回る



特徴 集中することや記憶することが困難(不注意)

例) 忘れ物が多い、気が散りやすい、片付けられない



特徴 思いついた行動を抑制することが困難(衝動性)

例) 順番が守れない、会話の流れを無視して話す



■ 自閉症スペクトラム障害 ASD=Autistic Spectrum Disorder

DSM-5では、ASD (Autism Spectrum Disorder : 自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害)
言葉の発達の遅れ、人とのコミュニケーションの困難、強いこだわりの3つの典型的特徴をもつ。IQ70以下で知的障害を伴えばカナータイプ、知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうち言葉の発達の遅れを伴わない場合はアスペルガータイプとすることが多い。「自閉症」「アスペルガー症候群」などを総称して「自閉症スペクトラム(連続体)」と呼ぶ。

特徴 状況をふまえた思考や行動が困難

例) 新しい遊びや模様替えした環境になじめない、他の子どもが遊んでいるおもちゃを取る、決まった場所に物がないとストレス



特徴 相手との意思疎通することが困難

例) 自分の気持ちを言葉にするのに時間がかかる、声の抑揚やジェスチャーが不自然



特徴 他者との関係づくりが困難

例) 1人で遊ぶのが好き、相手の視点をふまえた言動ができない、

